Ⅰ　学校調査

１　幼稚園

[Ⅰ-1-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　520園で、前年度より15園減少している。

・　設置者別では、国立1園(構成比0.2％)、公立191園(同36.7％)、私立328園(同63.1％)で、前年度より公立は13園、私立は2園、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市169園、堺市42園、吹田市29園の順に多い。

 [Ⅰ-1-1表・統計表1・付表-5]

（２）学級数

・　2,977学級で、前年度より112学級減少している。

・　設置者別では、国立6学級(構成比0.2％)、公立473学級(同15.9％)、私立2,498学級(同83.9％)で、前年度より公立は49学級、私立は63学級、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市885学級、堺市297学級、吹田市214学級の順に多い。

・　１園当たりの学級数は5.7学級で、前年度より0.1学級減少している。

 [Ⅰ-1-1表・統計表1]

（３）在園者数

・　62,788人（男子31,519人、女子31,269人）で、前年度より5,184人減少している。

・　設置者別では、国立144人(構成比0.2％)、公立8,535人(同13.6％)、私立54,109人(同86.2％)で、前年度より国立は6人、公立は801人、私立は4,377人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児18,449人(構成比29.4％)、4歳児21,104人(同33.6％)、5歳児23,235人(同37.0％）で、前年度より3歳児は1,435人、4歳児は2,027人、5歳児は1,722人、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市18,796人、堺市6,118人、吹田市5,042人の順に多い。

・　１学級当たりの在園者数は21.1人で、前年度より0.9人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの在園者数は10.4人で、前年度より0.8人減少している。

[Ⅰ-1-1表・Ⅰ-1-2表・統計表2・付表-5]

 [Ⅰ-1-2表] 　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数

・　17,891人（男子8,970人、女子8,921人）で、前年度より1,997人減少している。

・　設置者別では、国立54人(構成比0.3％)、公立3,411人(同19.1％)、私立14,426人(同80.6％)で、前年度より国立は8人、公立は229人、私立は1,760人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児15,184人(構成比84.9％)、4歳児2,097人(同11.7％)、5歳児610人(同3.4％）で、前年度より3歳児は1,650人、4歳児は395人、それぞれ減少、5歳児は48人増加している。

 [Ⅰ-1-2表・Ⅰ-1-3表]

[Ⅰ-1-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



 　[Ⅰ-1-1図]　年齢別入園者数の推移 [Ⅰ-1-2図]　公立・私立別入園者数の推移

**　　　　　**

（５）認可定員及び定員充足率

・　認可定員は116,678人で、前年度より2,955人減少している。

また、設置者別では、国立150人(構成比0.1％)、公立22,791人(同19.5％)、私立93,737人(同80.3％)で、前年度より公立は2,115人、私立は840人、それぞれ減少している。

・　定員充足率は53.8％で、前年度より3.0ポイント低下している。

また、設置者別では、国立96.0％、公立37.4％、私立57.7％で、前年度より国立は4.0ポイント、公立は0.1ポイント、私立は4.1ポイント、それぞれ低下している。

 [Ⅰ-1-4表・Ⅰ-1-3図]

[Ⅰ-1-4表] 　　認可定員、在園者数及び定員充足率



[Ⅰ-1-3図] 公立・私立別定員充足率の推移



（６）教員数（本務者）

・　6,017人（男性268人、女性5,749人）で、前年度より34人減少している。

・　設置者別では、国立9人（構成比0.1％)、公立1,131人（同18.8％)、私立4,877人

（同81.1％)で、前年度より公立は38人減少、私立は4人増加している。

 　　　　　　　　　[Ⅰ-1-1表・統計表3]

２　幼保連携型認定こども園

[Ⅰ-2-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　704園で、前年度より25園増加している。

・　設置者別では、公立92園(構成比13.1％)、私立612園(同86.9％)で、前年度より公立は2園、私立は23園、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市135園、大阪市66園、豊中市・東大阪市49園の順である。

 [Ⅰ-2-1表･統計表7・付表-5]

（２）学級数（3から5歳児）

・　3,012学級で、前年度より173学級増加している。

・　設置者別では、公立428学級(構成比14.2％)、私立2,584学級(同85.8％)で、前年度より公立は11学級、私立は162学級、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市482学級、大阪市313学級、東大阪市253学級の順に多い。

・　1園当たりの学級数は4.3学級で、前年度より0.1学級増加している。

[Ⅰ-2-1表・統計表7]

（３）在園者数

・　97,171人（男子49,861人、女子47,310人）で、前年度より2,912人増加している。

・　設置者別では、公立12,853人(構成比13.2％)、私立84,318人(同86.8％)で、前年度より公立は464人、私立は2,448人、それぞれ増加している。

・　年齢別では、0歳児4,542人（構成比4.7％）、1歳児11,833人（同12.2％）、2歳児13,823人（同14.2％）、3歳児22,383人(同23.0％)、4歳児22,385人(同23.0％)、5歳児22,205人(同22.9％）で、前年度より0歳児は56人減少、1歳児432人、2歳児375人、3歳児1,081人、4歳児925人、5歳児155人、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市16,694人、大阪市9,185人、東大阪市7,654人の順に多い。

・　3から5歳児の１学級当たりの在園者数は22.2人で、前年度より0.6人減少している。

・　教育・保育職員(本務者)１人当たりの在園者数は5.9人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-2-2表] 　　　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数（3から5歳児）

・　11,064人（男子5,701人、女子5,363人）で、前年度より163人増加している。

・　設置者別では、公立2,074人(構成比18.7％)、私立8,990人(同81.3％)で、前年度より公立は20人減少、私立は183人増加している。

・　年齢別では、3歳児8,123人(構成比73.4％)、4歳児1,814人(同16.4％)、5歳児1,127人(同10.2％）で、前年度より3歳児は94人、4歳児は25人、5歳児は44人、それぞれ増加している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-2-2表・Ⅰ-2-3表]

[Ⅰ-2-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



 [Ⅰ-2-1図] 年齢別在園者数　　　　　 　[Ⅰ-2-2図] 公立・私立別在園者数の推移

　　　　　

（５）認可定員及び定員充足率

・ 認可定員は110,918人で、前年度より4,259人増加している。

また、設置者別では、公立15,706人(構成比14.2％)、私立95,212人(同85.8％)で、前年度より公立は657人、私立は3,602人、それぞれ増加している。

・　定員充足率は87.6％で、前年度より0.8ポイント低下している。

 　また、設置者別では、公立81.8％、私立88.6％で、前年度より公立は0.5ポイント、私立は0.8ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-2-4表･Ⅰ-2-3図]

[Ⅰ-2-4表] 　　認可定員、在園者数及び定員充足率



[Ⅰ-2-3図]　公立・私立別定員充足率の推移



（６）教育・保育職員数（本務者）

・　16,443人（男性819人、女性15,624人）で、前年度より687人増加している。

・　設置者別では、公立1,988人（構成比12.1％)、私立14,455人（同87.9％)で、前年度より公立は170人、私立は517人、それぞれ増加している。

 [Ⅰ-2-1表・統計表9]

３　小学校

[Ⅰ-3-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　983校で、前年度より3校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.3％)、公立963校(同98.0％)、私立17校(同1.7％)で、前年度より公立は3校減少している。

・　市町村別では、大阪市294校、堺市94校、東大阪市49校の順に多く、能勢町0校、田尻町1校、忠岡町・太子町・河南町・千早赤阪村2校の順に少ない。

 [Ⅰ-3-1表・統計表13・付表-5]

（２）学級数

・　19,144学級で、前年度より149学級減少している。

・　設置者別では、国立54学級(構成比0.3％)、公立18,853学級(同98.5％)、私立237学級(同1.2％)で、前年度より公立は151学級減少、私立は2学級増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級13,632学級(構成比71.2％)、複式学級10学級(同0.1％)、特別支援学級5,502学級(同28.7％)で、前年度より単式学級は25学級増加、複式学級は5学級、特別支援学級は169学級、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市5,479学級、堺市1,832学級、豊中市980学級の順に多く、能勢町0学級、千早赤阪村17学級、田尻町21学級の順に少ない。

また、前年度より吹田市30学級、堺市29学級、岸和田市・泉佐野市・柏原市５学級の順に増加し、豊中市39学級、茨木市33学級、高槻市21学級の順に減少している。　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・統計表13・付表-5]

[Ⅰ-3-2表] 　 学級編制方式別学級数及び児童数



（３）児童数

・　410,467人（男子209,202人、女子201,265人）で、前年度より6,380人減少している。

・　設置者別では、国立1,854人(構成比0.5％)、公立402,072人(同98.0％)、私立6,541人(同1.6％)で、前年度より国立は5人、公立は6,337人、私立は38人、それぞれ減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級379,245人(構成比92.4％)、複式学級89人(同0.0％)、特別支援学級31,133人(同7.6％)で、前年度より単式学級は5,602人、複式学級は23人、特別支援学級は755人、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市116,520人、堺市40,884人、豊中市21,629人の順に多く、能勢町0人、千早赤阪村157人、田尻町442人の順に少ない。

 また、前年度より守口市32人、太子町20人、吹田市12人の順に増加し、堺市838人、豊中市807人、和泉市558人の順に減少している。

・　１学級当たりの児童数は21.4人で、前年度より0.2人減少している。

　また、市町村別では、大阪狭山市24.1人、茨木市23.4人、熊取町23.0人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの児童数は14.0人で、前年度より0.5人減少している。

[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・Ⅰ-3-3表・統計表14・付表-5]

 [Ⅰ-3-3表] 設置者別・男女別児童数



[Ⅰ-3-4表] 　　　学年別児童数



（４）帰国児童数及び外国人児童数

・　帰国児童数は468人で、前年度間より153人増加している。

・　外国人児童数は6,250人で、前年度より781人増加している。

 [Ⅰ-3-5表・Ⅰ-3-6表]

[Ⅰ-3-5表] 　 帰国児童数 　 [Ⅰ-3-6表]　　外国人児童数

 　 

（５）教員数（本務者）

・　29,280人（男性11,201人、女性18,079人）で、前年度より481人増加している。

・　設置者別では、国立74人(構成比0.3％)、公立28,738人(同98.1％)、私立468人(同1.6％)で、前年度より国立は3人減少、公立は491人増加、私立は7人減少している。

 [Ⅰ-3-1表・統計表16]

４　中学校

[Ⅰ-4-1表] 　　　主要指標の推移



 (注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「学級数」「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

・　513校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.6％)、公立450校(同87.7％)、私立60校(同11.7％)で、前年度より公立は1校、私立は１校、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市156校、堺市47校、東大阪市25校の順に多く、能勢町0校、忠岡町・田尻町・岬町・太子町・河南町・千早赤阪村1校、豊能町2校の順に少ない。

 [Ⅰ-4-1表・統計表22・付表-5]

（２）学級数

・　8,201学級で、前年度より162学級減少している。

・　設置者別では、国立33学級(構成比0.4％)、公立7,518学級(同91.7％)、私立650学級(同7.9％)で、前年度より公立は156学級、私立は6学級、それぞれ減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級6,061学級(構成比73.9％)、複式学級1学級(同0.0％)、特別支援学級2,139学級(同26.1％)で、前年度より単式学級は50学級減少、複式学級は1学級増加、特別支援学級は113学級減少している。

・　市町村別では、大阪市2,344学級、堺市791学級、東大阪市425学級の順に多く、能勢町0学級、千早赤阪村5学級、岬町11学級の順に少ない。

また、前年度より堺市14学級、岸和田市・箕面市3学級、島本町・田尻町・河南町1学級の順に増加し、大阪市60学級、八尾市23学級、枚方市11学級の順に減少している。

 [Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・統計表22・付表-5]

[Ⅰ-4-2表]　 学級編制方式別学級数及び生徒数



（３）生徒数

・　217,213人（男子110,894人、女子106,319人）で、前年度より2,281人減少している。

・　設置者別では、国立1,189人(構成比0.5％)、公立194,435人(同89.5％)、私立21,589人(同9.9％)で、前年度より国立は2人増加、公立は2,325人減少、私立は42人増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級205,693人(構成比94.7％)、複式学級8人（同0.0％）、特別支援学級11,512人(同5.3％）で、前年度より単式学級は1,921人減少、複式学級は8人増加、特別支援学級は368人減少している。

・　市町村別では、大阪市61,334人、堺市21,507人、東大阪市10,553人の順に多く、能勢町0人、千早赤阪村97人、岬町233人の順に少ない。

また、前年度より箕面市162人、吹田市64人、高石市46人の順に増加し、東大阪市352人、枚方市252人、高槻市176人の順に減少している。

・　１学級当たりの生徒数は26.5人で、前年度より0.3人増加している。

また、市町村別では、交野市31.9人、高石市31.1人、大阪狭山市30.5人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は12.6人で、前年度より0.4人減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・Ⅰ-4-3表・統計表23・付表-5]

 [Ⅰ-4-3表]　 　 　 設置者別・男女別生徒数



[Ⅰ-4-4表] 学年別生徒数



（４）帰国生徒数及び外国人生徒数

・　帰国生徒数は165人で、前年度間より28人増加している。

・　外国人生徒数は2,250人で、前年度より165人増加している。

[Ⅰ-4-5表・Ⅰ-4-6表]

[Ⅰ-4-5表]　 帰国生徒数 　　　　　　　　[Ⅰ-4-6表]　外国人生徒数

 　　　

　　　　　　　　　 　　　　　　　(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」は

含めていない。

（５）教員数（本務者）

・　17,219人（男性9,312人、女性7,907人）で、前年度より305人増加している。

・　設置者別では、国立63人(構成比0.4％)、公立15,786人(同91.7％)、私立1,370人(同8.0％)で、前年度より公立は317人増加、私立は12人減少している。

 [Ⅰ-4-1表・統計表25]

（６）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

学級数は39学級で前年度より2学級減少、生徒数は616人で前年度より4人増加している。

　[Ⅰ-4-7表]

[Ⅰ-4-7表] 夜間その他特別な時間において授業を行っている

学校数、学級数、生徒数及び教員数（本務者）(公立)



５　義務教育学校

 [Ⅰ-5-1表] 　　　主要指標の推移



(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

　　10校で、前年度より1校増加している。　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-5-1表・統計表31]

（２）児童生徒数

・　6,678人（男子3,431人、女子3,247人）で、前年度より1,164人増加している。

・　教員（本務者）１人当たりの児童生徒数は10.8人で、前年度より0.2人減少している。

[Ⅰ-5-1表・Ⅰ-5-2表・統計表32]

 [Ⅰ-5-2表]　　　　　　　　　課程別・学年別児童生徒数



（３）教員数（本務者）

619人（男性281人、女性338人）で、前年度より117人増加している。

[Ⅰ-5-1表・統計表34]

（４）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

　　生徒数は127人で、前年度より2人減少している。　　　　　　　　　　　　　　　 　[Ⅰ-5-3表]

[Ⅰ-5-3表]　夜間その他特別な時間において授業を行っている

学校数、学級数、生徒数及び教員数（本務者）(公立)



６　高等学校（全日制・定時制）

[Ⅰ-6-1表] 　　　　主要指標の推移



（１）学校数

・　254校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.4％）、公立157校(同61.8％）、私立96校(同37.8％）である。

・　課程別では、全日制課程のみを置く学校が231校、定時制の課程のみを置く学校が5校、全日制・定時制の課程を併置する学校が18校である。

・　市町村別では、大阪市89校、堺市24校、東大阪市14校の順に多い。

[Ⅰ-6-1表・統計表36・付表-5]

（２）学科数

・　319学科で、前年度より1学科減少している。

・　課程別では、全日制課程293学科、定時制課程26学科である。

・　学科分野別では、普通科190学科、専門教育を行う学科として農業科2学科、工業科22学科、商業科12学科、家庭科3学科、看護科3学科、福祉科2学科、その他の学科48学科、総合学科37学科である。　　　　　　　　　　　　　 　 [Ⅰ-6-2表]

[Ⅰ-6-2表] 　　　　課程別学科数



（３）生徒数

・　198,941人（男子99,777人、女子99,164人）で、前年度より3,935人減少している。

・　設置者別では、国立1,273人(構成比0.6％）、公立106,164人(同53.4％）、私立91,504（46.0％）で、前年度より国立は31人、公立は3,538人、私立は366人、それぞれ減少している。

・　課程別では、全日制課程196,510人(構成比98.8％)、定時制課程2,431人(同1.2％)で、前年度より全日制課程は3,933人、定時制課程は2人、それぞれ減少している。

・　学科分野別では、普通科148,839人(構成比74.8％)、その他19,550人(同9.8％)、総合学科15,406人(同7.7％)、工業科8,605人（同4.3％)、商業科3,900人 (同2.0％）の順に多い。

・　市町村別では、大阪市69,087人、堺市17,265人、東大阪市10,946人の順に多い。

また、前年度より寝屋川市99人、高石市77人、茨木市49人の順に増加し、大阪市846人、堺市672人、東大阪市592人の順に減少している。

・　１校当たりの生徒数は783.2人で、前年度より15.5人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は14.3人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-6-1表・Ⅰ-6-3表・Ⅰ-6-4表・統計表38・付表-5]

[Ⅰ-6-3表] 　　設置者別生徒数



[Ⅰ-6-4表] 　　　学科別生徒数



[Ⅰ-6-5表] 　　課程別・学年別生徒数



 [Ⅰ-6-1図]　 学科別生徒数



[Ⅰ-6-2図] 学科別生徒数の推移



（４）帰国生徒数及び外国人生徒数

・　帰国生徒数は142人で、前年度間より39人増加している。

・　外国人生徒数は1,243人で、前年度より10人減少している。

[Ⅰ-6-6表・Ⅰ-6-7表]

[Ⅰ-6-6表]　　帰国生徒数 　　 　[Ⅰ-6-7表] 外国人生徒数

　　

（５）入学状況

・　入学定員は75,970人で、前年度より148人減少している。

また、設置者別では、国立440人（構成比0.6％）、公立39,582人（同52.1％）、私立35,948人（同47.3％）で、前年度より公立は29人増加、私立は177人減少している。

・　入学志願者は111,575人で、前年度より3,515人減少している。

また、設置者別では、国立478人（構成比0.4％）、公立43,175人（同38.7％）、私立67,922人（同60.9％）で、前年度より国立は10人減少、公立は286人増加、私立は3,791人減少している。

・　入学者は67,137人で、前年度より684人減少している。

また、設置者別では、国立427人（構成比0.6％）、公立36,789人（同54.8％）、私立29,921人（同44.6％）で、前年度より国立は11人、公立は11人、私立は662人、それぞれ減少している。

 [Ⅰ-6-8表・統計表41]

[Ⅰ-6-8表] 入学状況



（６）教員数（本務者）

・　13,864人（男性9,129人、女性4,735人）で、前年度より232人減少している。

・　設置者別では、国立82人(構成比0.6％)、公立8,425人(同60.8％)、私立5,357人(同38.6％)で、公立は211人、私立は21人、それぞれ減少している。

・　課程別では、全日制課程13,334人(構成比96.2％）、定時制課程530人(同3.8％）で、前年度より全日制課程は213人、定時制課程は19人、それぞれ減少している。

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-6-1表・統計表42]

７　高等学校（通信制）

[Ⅰ-7-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　14校で、前年度より１校増加している。

・　設置者別では、公立1校(構成比7.1％)、私立13校(同92.9％)である。

・　独立校（通信制課程のみの学校)は、私立12校である。

[Ⅰ-7-1表]

（２）生徒数

・　18,474人（男子9,112人、女子9,362人）で、前年度より1,635人増加している。

・　設置者別では、公立1,937人(構成比10.5％)、私立16,537人(同89.5％)で、前年度より公立は132人、私立は1,503人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-7-1表・統計表49]

（３）教員数（本務者）

・　357人（男性209人、女性148人）で、前年度より28人増加している。

・　設置者別では、公立46人(構成比12.9％)、私立311人(同87.1％)で、前年度より私立は28人増加している。

 [Ⅰ-7-1表]

８　中等教育学校

[Ⅰ-8-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

1校で、前年度と同じである。

 [Ⅰ-8-1表]

（２）生徒数

・　47人（男子31人、女子16人）で、前年度より28人減少している。

・　課程別では、後期課程47人で前年度より28人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は3.4人で、前年度より0.8人減少している。

[Ⅰ-8-1表・Ⅰ-8-2表]

[Ⅰ-8-2表] 　　　　　　 　課程別・学年別生徒数



（３）教員数（本務者）

14人（男性9人、女性5人）で、前年度より4人減少している。

[Ⅰ-8-1表]

９　特別支援学校

[Ⅰ-9-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　50校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、国立1校、公立49校で、前年度と同じである。

 [Ⅰ-9-1表・統計表50]

（２）在学者数

・　9,998人（男子6,612人、女子3,386人）で、前年度より178人増加している。

・　設置者別では、国立57人(構成比0.6％)、公立9,941人（同99.4％）である。

・　部別では、幼稚部91人(構成比0.9％)、小学部3,087人(同30.9％)、中学部2,794人(同27.9％)、高等部4,026人(同40.3％)である。

・　１学級当たりの在学者数は4.2人で、前年度より0.1人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの在学者数は1.8人で、前年度と同じである。

[Ⅰ-9-1表・Ⅰ-9-2表・統計表51]

[Ⅰ-9-2表] 　　部別・男女別在学者数



（３）教員数（本務者）

・　5,501人（男性2,241人、女性3,260人）で、前年度より71人増加している。

・　設置者別では、国立28人(構成比0.5％)、公立5,473人（同99.5％）である。

[Ⅰ-9-1表・統計表53]

１０　専修学校

[Ⅰ-10-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　216校で、前年度より3校減少している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.5％)、公立1校(同0.5％)、私立214校(同99.1％)で、前年度より私立は3校減少している。

・　市町村別では、大阪市159校、堺市16校、東大阪市5校の順に多く、73.6％が大阪市に集中している。

 [Ⅰ-10-1表・統計表54]

（２）学科数

・　882学科で、前年度より26学科減少している。

・　設置者別では、国立1学科（構成比0.1％)、公立1学科（同0.1％)、私立880学科(同99.8％)で、前年度より私立は26学科減少している。　　　　　　　　　　　　　　　　　[統計表54]

（３）生徒数

・　65,958人（男子28,228人、女子37,730人）で、前年度より3,800人減少している。

・　設置者別では、国立30人(構成比0.0％)、公立84人(同0.1％)、私立65,844人(同99.8％）で、前年度より国立は4人減少、公立は15人増加、私立は3,811人減少している。

・　課程別では、高等課程4,170人(構成比6.3％)、専門課程61,567人(同93.3％)、一般課程221人(同0.3％)で、前年度より高等課程は113人、専門課程は3,734人、それぞれ減少、一般課程は47人増加している。

・　分野別では、文化・教養関係18,882人(構成比28.6％)、医療関係16,962人(同25.7％)、工業関係10,501人(同15.9％)の順に多い。文化・教養関係のうちではその他6,081人、医療関係のうちでは看護6,268人、工業関係のうちでは情報処理4,602人が、それぞれ最も多い。

・　１校当たりの生徒数は305.4人で、前年度より13.1人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は17.8人で、前年度より0.9人減少している。

　[Ⅰ-10-1表・Ⅰ-10-3表・Ⅰ-10-4表・Ⅰ-10-1図・I-10-2図・統計表54・55]

[Ⅰ-10-2表]　 　類型別学校数



[Ⅰ-10-3表] 　　課程別生徒数



[Ⅰ-10-4表] 　　分野別生徒数



[Ⅰ-10-1図] 　分野別生徒数の推移



[Ⅰ-10-2図] 　　　　学科別生徒数の割合



（４）入学者数

・　令和5年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は28,691人（男子11,953人、女子16,738人）で、前年度より1,799人減少している。

・　設置者別では、国立9人（構成比0.0％)、公立42人（同0.1％)、私立28,640人（同99.8％)である。

・　課程別では、高等課程1,577人(構成比5.5％)、専門課程26,916人(同93.8％)、一般課程198人(同0.7％)で、前年度より高等課程は19人、専門課程は1,804人、それぞれ減少、一般課程は24人増加している。

 [Ⅰ-10-5表・統計表55]

[Ⅰ-10-5表]　　課程別入学者数



（５）卒業者数

・　令和４年４月１日から令和５年３月31日までの１年間の卒業者数は28,063人（男子11,864人、女子16,199人）で、前年度間より1805人減少している。

・　設置者別では、国立13人（構成比0.0％)、公立24人（同0.1％)、私立28,026人（同99.9％)である。

・　課程別では、高等課程1,474人(構成比5.3％)、専門課程26,424人(同94.2％)、一般課程165人(同0.6％)で、前年度間より高等課程は180人、専門課程は1633人、それぞれ減少、一般課程は8人増加している。

・　卒業者のうち関係分野に就職した者は19,135人で、68.2％を占めている。また、課程別では、高等課程356人(同課程卒業者の24.2％)、専門課程18,779人(同71.1％)である。

[Ⅰ-10-6表・統計表55]

[Ⅰ-10-6表] 課程別卒業者数



（６）教員数（本務者）

・　3,702人（男性1,850人、女性1,852人）で、前年度より22人減少している。

・　設置者別では、国立2人(構成比0.1％)、公立6人(同0.2％)、私立3,694人(同99.8％)で、前年度より国立は１人、私立は21人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

１１　各種学校

[Ⅰ-11-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　29校で、前年度より6校減少している。

・　市町村別では、大阪市19校、東大阪市4校の順に多く、65.5％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-11-1表・統計表56]

（２）課程数

53課程で、前年度より12課程減少している。

 [統計表56]

（３）生徒数

・　8,594人（男子4,835人、女子3,759人）で、前年度より456人増加している。

・　修業年限別では、1年未満の課程1,548人（構成比18.0％）、1年以上の課程7,046人（同82.0％)である。

・　分野別では、その他6,881人(構成比80.1％)、文化・教養関係1,193人(同13.9％)、教育・社会福祉関係205人(同2.4％）の順に多い。その他のうちでは、予備校3,538人、外国人学校2,252人、自動車操縦960人の順に多い。

 ・　１校当たりの生徒数は296.3人で、前年度より63.8人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は21.2人で、前年度より1.5人増加している。

[Ⅰ-11-1表・I-11-2表・I-11-3表・Ⅰ-11-1図・統計表57]

[Ⅰ-11-2表] 　　　　　分野別生徒数



[Ⅰ-11-1図] 　　分野別生徒数の推移



（４）入学者数

・　令和５年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は4,944人（男子3,125人、女子1,819人）で、前年度より440人減少している。

・　課程別では、その他4,296人が最も多い。その中では予備校3,538人が最も多く、入学者数の71.6％を占めている。

[I-11-4表・統計表57]

|  |  |
| --- | --- |
| [Ⅰ-11-3表]修業年限別生徒数 | [Ⅰ-11-4表]生徒数、入学者数及び卒業者数 |

（５）卒業者数

・　令和４年４月１日から令和５年３月31日までの１年間の卒業者数は7,238人（男子4,512人、女子2,726人）で、前年度間より188人増加している。

・　課程別では、その他6,483人が最も多い。その中では予備校3,472人が最も多く、卒業者数の48.0％を占めている。

[統計表57]

（６）教員数（本務者）

406人（男性212人、女性194人）で、前年度より8人減少している。

[I-11-1表・統計表56]